
平民の錬金術師

ハセガワ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

平民の錬金術師

【Nコード】

N34910

【作者名】

ハセガワ

【あらすじ】

目の前が真っ暗になって起きてみたら、そこはゲルマニアでした。

第一話（前書き）

初めまして、ハセガワという者です。

テンションが上がりがりすぎて投下しちゃいましたが駄文です。

究極の暇つぶしにでもしていただけなら幸いです。

この小説はゼロ魔の二次創作オリ主転生モノです。

一話には何も書いてないけど…

忘れた頃に続きが貴方の後ろに…

第一話

お前ら 落ち着いて 聞いて 欲しい
目が覚めたら 俺は … 赤子 だった

(説明終了)

あ…ありのまま起きた事を説明しようと思ったんだぜ？だが、俺には何が起きたのかさっぱり分からなかった…。ポケモンやって意識がトリップしたと思ったら身体が小っちゃくなって毛布の中で寝てた。冗談だと思うだろ？でも他になんの心当たりも無いんだ。普通に一週間ぐらい寝ずにぶっ通しで全種類の個体値上げる作業に入ってただけなんだ。え？それが原因？そんな訳ないっすよ。飯も食ってた記憶ないけどさ。廃人？いや…俺如きがその名を名乗るのはちょっと…ね

「…………あばばいでぢゅ、ぼえっ…んや (知らない天井だ)」

それにしてもおかしい。声が上手く出ない。最後の方なんかヤバいのが出たような気がするが。なにこれこわい。周囲を見渡しても木の屋根しか見えないし。感触からして俺はサランラップ的な何かに包まってる気がするんだ。あれか。俺の毛穴でも止める気が。もうね、蒸し暑くて肌呼吸出来ないわコレ。うわっなんか変な臭いが…

「ぴぎいいいいい！(うわ臭っさ！)」

何これ？^{よたれ}涎か？凄く…ベトベトします…赤い石？みたいなのが俺の胸の上に飛び出てるんですけど。あれか？俺がさっき寝ゲロした奴なのか？そうなのか？どうみても今まで無かったし絶対そうだよな…

ちよつと顎で触ってみるか…？

バチイツ！！

「へぶしっ！（痛あつ！？）」

おい一瞬稲妻みたいのが走ったぞ今！！ビリビリって青い奴が。なんか形状変わってるし。今まで固形物みたいだったのがスライム状に変化したんだけど。凄くぷにぷにするわコレ。グミみたいな何か？食べ物残りか何かか？いや…それだと俺は石を食べてたのか？あ…ありえん…。

そついや何かさつきからお腹の辺りが重いような気がする。なんかタプタプ言ってるし。首動かせないから何かあるのかはさっぱりだけど。手とかも動かせないから触れないが。いや寧ろ怖くて触れないわ。たつぶんたつぶん気持ち悪い怖い。

…そつ言えばここどこだろ？赤子なのはさておき、屋根付きだとは言えなんか汚いし…今時こんな古い屋根の家とかあるのか？うわ…日本じゃない気がしてきた。あれか？もう分かってたけど俺転生したのか？おいおい二次創作とかでお決まりなあれじゃねーか！もしかして実は俺貴族の子だったりするのか？もしや魔法とか使えんのか？うわなにそれ凄そう。

よ！ほ て な ！ア ルが を！

ん？誰かが何か叫んでる？あでも目の前がボヤけて何も見えない…
なんか凄い眠くなってきた…た

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3491o/>

平民の錬金術師

2010年10月16日23時20分発行